

教科・科目		対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
理科・地学基礎		1 年 (音楽コース)	2	「高等学校 地学基礎」： (啓林館)	ビジュアルプラス 地学基礎の基本マスター（啓林館）
科目の 目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、 地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評価方法					
科目の目標がどの程度達成されたか、また、目標達成に向け自主的・積極的に取り組んだかを次の観点から評価する。 ①定期考査（中間・期末考査）では、科目の到達目標をふまえた問題で、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。 ②実験レポート（データ処理、考察）では、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を評価する。 ③課題、小テストでは、知識・技能、主体的に学習に取り組む態度を評価する。 ④授業への取り組みでは、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を客観的に評価する。					
	学 期	単元・学習項目		学習内容・到達度目標	
年 間 の 授 業 内 容	1 学 期	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 1節 地球の概観 2節 地球内部の構成 第2章 活動する地球 1節 プレートテクトニクスと地球の活動 2節 地震 3節 火山活動と火成岩の形成		・地球の形の特徴と大きさ、観察や測定結果などから理解する。 ・地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解する。 ・火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解する。特に、日本におけるプレートの様子、海溝の場所、地震の震央分布、加えて人工構造物における共振現象について理解する。 ・火山の場所については、プレートの境界付近だけでなく、ホットスポットもあることを理解する。 ・マグマの性質は、その成分によって決まり、成分によって火山の形状や噴火の様子が異なることを理解する。 ・プレートの分布と運動の様子や、プレート運動によって大地形がどのように形成させるかについて理解する。 ・地層が形成される仕組みや地層や岩石にみられる地質構造について理解する。 ・火成岩や堆積岩は、温度や圧力の影響を受け変成岩になることを理解する。	
	2 学 期	第2部 大気と海洋 第1章 大気の大循環 1節 大気圏 2節 水と気象 第2章 太陽放射と大気・海洋の運動 1節 地球のエネルギー収支 2節 大気の大循環 3節 海水の循環 第3章 日本の天気 1節 日本の位置 2節 冬から春の天気 3節 夏から秋の天気 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 1節 宇宙の誕生 2節 太陽系の誕生 第2章 地球と生命の進化 1節 先カンブリア時代 2節 顕生代		・大気の大循環の概要を理解し、地球全体として大気を通して出入りする太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつりあっていることを理解する。 ・緯度によって太陽放射の受熱量が異なること及びそのことで生じている大気の大循環や海水の運動により、地球規模で熱が輸送されていること理解する。 ・大気圏は、高度によって大気の性質が異なることを知り、特に対流圏と成層圏について、その特徴を理解する。 ・銀河系における太陽系、局部銀河群における銀河系など、太陽系が宇宙の中でどのように位置するかを理解する。 ・恒星の一つである太陽について、表面付近に見られる現象、エネルギー源及び進化について理解する。 ・地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す環境をもつ惑星となった過程を理解する。 ・恒星などの集団である銀河が分布している宇宙について、その誕生と現在の姿を理解する。 ・化石を調べることにより、その生物が生息していた場所の環境、生活していた状況、時代等が分かることを理解する。 ・生物の大量絶滅の時期が過去複数回あったこと知り、それらが起きた原因について考えることができる。	
	3 学 期	第3章 地球史の読み方 1節 地層からわかること 2節 地層の形成 3節 地層の読み方 第4部 自然との共生 1節 地球環境と人類 2節 地震災害・火山災害 3節 気象災害 4節 災害と社会 5節 人間生活と地球環境の変化		・古生物の変遷などに基づいて地質時代が区分されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかを理解する。 ・人間生活と関連している地球規模の自然環境の変化を科学的に考察できる。 ・日本における自然環境が人間生活と深く関わっていることを理解する。 ・地球規模の気候変動と異常気象を把握することができる。 ・人口増加による問題点、水循環の変化がもたらす人間社会への影響を理解できる。	